



学校だより

令和2年度小川中学校
令和2年10月30日 発行

NO, 8 文責:小林 浩一

<後期人権学習月間の開始にあたっての校長講話より 10/15 土>



しつとりと雨が降る、秋らしい朝となりました。感動の若鷹祭から2週間が経ちましたが、全校の皆さんは疲れが取れましたか？各学年、そして生徒会は次の目標に向けての生活が始まっていますね。

今日は、来週から始まる秋の人権学習についてお話します。「人権」って難しい言葉ですね。人が安心して生きていくことのできる権利、人が人らしく生きることのできる権利です。

この人権を奪う物として「差別」があります。差別ってなんですか？差別をしてしまう人間って何でしょう？どうして差別はなくなるのでしょうか？自分はどう生きていったらいいだろうか？そんなことを考えてもらいたくて、2つのお話を紹介します。

一つ目ですが、マルクス・レーム選手、ドイツの方です。知っている方はいますか？14才で右足の膝から下を切断して失ってしまいました。スポーツが大好きな彼は、義足を付けて動き出します。義足を付けるって、とても痛いんだそうです。でも動きたいから、スポーツをしたいから義足を付けて動き出しました。歩くのも怖い、走るのはもっと怖い、ジャンプするなんてとても怖かったんです。そんな中で彼は走り幅跳びを始めました。最初は左足でジャンプしていましたが、勇気を出して義足の右足でジャンプを始めました。思い切り走って行って、自分の足でない物に自分の全体重をかけてジャンプする。想像するだけで怖いですよ。2メートル、3メートル、4メートルと記録を伸ばしていきました。

そんな彼の姿にみんな応援してくれました。「一生懸命努力しているな」「応援しているぞ」「どんどん記録を伸ばしてくれよ」「障害に負けないで挑戦している姿は立派だぞ」。みんな声をかけてくれました。

その後も記録を伸ばしていき、2014年のドイツ陸上選手権、ドイツナンバーワンを決める大会で、障害のない選手よりも遠くへ跳んで、8メートル24で優勝しました。オリンピックを目指している選手達と同じ大会に出場し、優勝したのです。

その後も記録を伸ばしていき、2015年には8メートル40、2018年には8メートル48と記録を更新していきました。ロンドンオリンピックの優勝は8メートル31、リオオリンピックの優勝は8メートル38。オリンピックの優勝を超える記録を出すようになったんです。周りの応援に応じて、必死に練習を積んできたんですね。

この記録を知って、周りの応援していた方々はどんな反応を示したのでしょうか。今まで応援していた方が、「義足だから遠くへ跳べるんだ」「義足なんてずるい」「不公平だ」「障害者が俺たちの大会のメダルをうばうのか」そんな声があがってきました。応援の声から誹謗中傷の声へと変わってしまいました。ドイツで優勝し、オリンピック出場のための標準記録をクリアしても、東京オリンピックには出場できません。どうしてでしょうか。障害があるから？義足を付けているから？

もうひとつは日本でのお話です。色々な差別がありますが、ハンセン病の方への差別というものがあります。今もコロナ感染者への誹謗中傷がありますね。このハンセン病については、2年生はクラスで学習をし

ました。1年生にとっては少し難しいかもしれませんが、分からないところは、いつでもいいので質問してください。日本ではハンセン病に感染した方がずっと差別の対象とされてきました。感染した本人だけでなく、家族もひどい差別を受けてきました。ハンセン病に感染すると、家族と一緒に家で暮らすことはできません。全国に何カ所かある療養所に強制的に入れられてしまいます。そして治療によって回復したあとも、そこから出て家に戻ることはできませんでした。家族も周りから偏見の目で見られ、差別を受け、そして近づくともハンセン病がうつってしまうと、恐怖の対象とされてきました。

自分の生まれた家で暮らせない。名前も変えられてしまいました。子どもを産むことは許されない。療養所から出ることができない。亡くなったあとも故郷に戻れない。それはそれはひどい差別です。私たちはこの日本の誤った歴史を絶対に忘れてはならないし、皆さんにもどうしてこんなひどい差別が起きたのか、そして長い間続いたのか学んでほしいと思います。

この写真は、群馬県の草津温泉にある栗生楽泉園です。ハンセン病感染者の療養所で、長野県からも多くの感染者がここに強制的に隔離されました。この建物は何だと思いませんか。「栗生納骨堂」と書いてあります。ここで亡くなった方々のお骨を納めてある所です。亡くなくても故郷のお墓に入れてもらえない。どんな思いでここで暮らしていたのでしょうか。亡くなった後も差別が続いているんです。

「命かえして」と書いてあります。生まれてくることが許されなかった、小さな命がここに眠っています。これらは全て日本の法律で決められた差別なんです。

1996年、日本の法律が変わって、ハンセン病から回復した方々は、療養所から出て生活することが許されました。2003年、長い間療養所の中でひどい暮らしを強いられた方々、黒川温泉のホテルに宿泊したいと予約を入れると、ハンセン病感染者であったという理由で宿泊を断られてしまいました。

このニュースを聞いて、日本中からこのホテルに対して「なんてひどいホテルなんだ」「まだ差別をしているのか」「絶対に許せない」「ホテルは謝罪をしろ」と言った声が寄せられました。

世論の高まりも受けて、ホテルの総支配人は謝罪をしました。ところが、これはホテルの総支配人個人の問題ではない。これは社会の中にハンセン病への差別が根強く残っている社会全体の問題だ。だから総支配人の謝罪は受けられない。とハンセン病回復者の方々は返答しました。

これを聞いて、今まで「差別だ」と怒っていた人々の攻撃の対象が、ホテルからハンセン病回復者へと変わってしまいました。それはそれはひどい言葉が投げかけられました。「病人が何を言っているんだ」「世間を甘く見るんじゃないぞ」「おまえ達とは同じ温泉には入れない」「そんなこと言っていると、同情が集まらないぞ」「ホテルになんか泊まろうと思うんじゃない」「おとなしくしてろ」等々、ここには載せられないひどい言葉もありました。「おまえ達は世間のゴミだ」「早く死んでしまえ」、そんな言葉まで投げかけられました。その言葉を聞いて、辛かったです。苦しかったです。法律は変わっても差別は終わらない、と感じていました。

マルクス・レーム選手が記録を伸ばした時、周りの人はどうして応援から誹謗中傷へと態度が変わってしまったのでしょうか。ホテルを責めていた人達は、どうしてハンセン病回復者の方々を責めるようになったのでしょうか。これは障害を持った方への、ハンセン病回復者への差別です。差別をしてしまった方は、きっと自分よりも相手を下に見ていたのではないのでしょうか。

どうして人間は差別をしてしまうか。何が応援から誹謗中傷へと人を変えてしまうのか。自分はどうかろう、自分はどうか生きていったらいいのだろうか。差別を無くすには、差別に気づくにはどんな学習をしなければいいのだろうか。そんなことをこの秋の人権学習月間で考えてみましょう。

10月の行事より

<男女バレー部長水地区新人戦（長野市長杯） 10月17日>

10月17日（土）に男女バレーボール部、長水地区新人戦（長野市長杯）が行われました。男子は、長野東部中、中条中、小川中の合同チームでの参加でした。第1試合×合同チーム0-2若穂中、第2試合○合同チーム2-1篠ノ井東中でAブロック3位。女子は、第1試合○小川中2-1豊野中、第2試合○2-0松代中でDブロック1位でした。

男子は合同チームでの練習も浅い中、1勝できたことは素晴らしい結果だったと思います。女子はブロック優勝でした。おめでとうございます。

10月31日（土）、11月1日（日）は長水新人大会ですね。男子バレーボール部は、松代中会場（一日目）、女子バレーボール部は長野東部中会場（一日目）

（※2日目は1日目の勝敗によって会場が決定）そして、11月3日（火）には、体操競技がホワイトリンクサブアリーナで行われます。

ぜひ、日頃の練習の成果を発揮して、全力で闘ってきてください。入場制限もあり、応援に行けない会場もありますが、選手のみなさんの健闘を全校生徒、職員で祈っています。



<HIRUYASU MACHI SP 10月23日>

HIRUYASU MATCH SP が保護者の皆様のご参観のもと行われました。

結果は、優勝：ヤングホークス 758 点。

2位：ファイヤースピリッツ 724 点。

3位：フェニックス 608 点でした。

表彰式後の感想発表では、各チームの代表が楽しかった、縦割りチームもよかった、団結力も高まり、仲良くなった、雨天で体育館だったが、それもよかった。と発表してくれました。結果はどうあれ、楽しくできて、けが人も出なくてよかったです。

最後に感想を発表してくれた3年生から「すごく楽しかった。若鷹祭が終わって一段落している人が多い中、放送・体育委員のみなさんは朝早くから来て準備をしてくれました。そのおかげで今日はとても楽しめました。ありがとうございました。お疲れ様でした」と放送・体育委員のみなさんへの感謝の言葉がありました。放送・体育委員会のみなさんご苦労様でした。保護者の皆様、多数のご参観ありがとうございました。



<長野パルセイロとの交流事業 10月26日>

晴天の中、長野パルセイロのコーチのみなさんによる、ミニサッカー教室がありました。コーンを触れるゲームでは、最初は20回程度だったのが、最後には100回近くの記録も出てすごかったです。学年内の試合は、サッカーを社会体育で行っている人もいて、随所で素晴らしいプレーが見られました。短い時間となりました。



<ポジティブウイーク第2弾「思いっきり叫べ！自分の殻を破ってみよう」 10月27日>

第2回「思いっきり叫べ！自分の殻を破ってみよう！」の講評から、

1年生は、明るくさわやかにみんなで叫びました。叫んだ後お互いに笑っている、笑顔になっている姿が印象的でした。

2年生は、体全体を使って大きな声を出そうとする姿勢が、前回と比べると殻を破った感じです。生徒会を引き継ぐ気持ちが表れていました。

3年生は、全員の声揃って、声も遠くまで響いていた感じです。ただ、1、2年生を見守るような、一步大人の感じもしました。



ポジティブウイークの目的は、全校の仲を深め、楽しい学校生活を送れるようにする、学校に行くのがワクワクするような学校をつくるです。目的はみなさんの姿から達成されつつあると感じます。本部役員のみなさん忙しい中の準備、ありがとうございました。

<編集・図書委員会企画 読書月間「読書郵便」10月中旬～11月中旬>

編集・図書委員会では秋の読書月間に様々な企画を立てていますが、その第一弾として、「読書郵便」が始まっています。読書郵便とは、お薦め本を書いてポストに入れると、校内の誰かに届き、その人がお薦め本を読んだ感想を返すという仕組みです。普段読まないジャンルの本を読むことが多いので、本への興味、関心が広がりそうな企画ですね。



<保健・給食委員会企画「給食チェック週間」10月26日～10月30日（金）>

保健・給食委員会のみなさんは、新型コロナウイルスによる感染が収まらない、こんな時だからこそ給食時の身支度や手洗い、消毒の呼びかけや、片付け時間を見直す活動をしてれています。

この一週間で返却時間は前よりも早くなりました。この週間が終わっても意識して続けてほしい活動です。



<お知らせ>

【冬服についてのお願い】

- ・11月2日（月）より「令和2年度の後期」が始まります。それにあわせ、登下校時を制服着用といたします。ご準備をお願いいたします。登下校時で寒い場合は防寒着を適宜着用してください。登校後は、ジャージ、または、制服での生活となります。
- ・三者懇談会の希望用紙の提出が11月6日（金）までとなっております。小学校との兄弟姉妹関係の日程調整がありますので、期日までのご提出をよろしくお願いたします。